

刊行にあたって

東京都歴史文化財団江戸東京博物館の都市歴史研究室は、江戸東京に関する研究成果を広く公開する場として、館内外の研究者によるシンポジウムを開催してきております。すでに総合テーマ「江戸東京学の現状と課題」の下に、「明治維新を都市民はどう生きたか」「江戸東京における首都機能の集中」「幕末明治における江戸東京文化の受容」というテーマのシンポジウムを開催し、関連テーマの研究会報告と一緒にした『シンポジウム報告書』を三冊刊行しました。

さらに平成13年度からは、新たに地域をテーマとしたシンポジウムを開催することにし、その嚆矢として「日本橋」の共同研究に取り組み、シンポジウム「日本橋」を開催して、その成果も『調査報告書第13号』として刊行しました。

それに引き続き平成15年度は、館蔵資料のなかでも大部な江戸東京の歴史史料である石井良助氏コレクションの中から、「四谷塩町一丁目」関係文書に注目し、「四谷塩町一丁目」（現在の新宿区本塩町、JR四ツ谷駅西口近く）という地域研究と同時に、幕末から明治維新时期にかけての具体的な町の実態について検討を試みました。そこで新宿区教育委員会の四谷一丁目遺跡発掘調査の成果などをあわせて共同研究も実施し、平成15年11月8日にシンポジウム「四谷塩町」として都市歴史研究室フォーラム「江戸から東京へ—四谷塩町一丁目の暮らし—」を当館1階ホールで開催しました。都内では、文献史料と考古学の発掘資料の成果を合わせ、町政や生活や居住実態を分析・検討できる地域は、この「四谷塩町一丁目」を除いて、他にはあまり見られません。新宿区教育委員会の協力を得、また赤澤春彦氏を招請して、意欲的なシンポジウムが展開できたと思います。

この「四谷塩町一丁目」関連文書の研究は、常設展の展示や企画展「大江戸八百八町展」などに生かされ、そうした成果をふまえて、この度『東京都江戸東京博物館研究報告』の特集として編集・刊行しました。

なお「四谷塩町一丁目」関係文書は、すでに『江戸東京博物館史料叢書』1～7として当館都市歴史研究室で翻刻刊行し、今年度末にはその8が刊行予定です。またマイクロフィルム化してありますので、当館7階図書室で閲覧できます。本報告とあわせて御活用下されば幸いです。

江戸東京博物館 都市歴史研究室長
小澤 弘